

平成29年度 決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	平成28年度 決算 A	平成29年度 決算 B	対前年増減額・率		平成30年度 計画 ※
			B-A	(%)	
営業収益	10,345	10,564	219	2.1%	23,632
高速道路事業	9,545	9,755	210	2.2%	22,802
(料金収入)	8,225	8,376	150	1.8%	7,565
(道路資産完成高)	1,229	1,293	63	5.1%	15,159
(その他の営業収益)	89	85	△ 3	△4.0%	77
関連事業	862	873	10	1.2%	907
(SA・PA事業)	420	416	△ 3	△0.8%	424
(受託・その他の事業)	441	456	14	3.2%	483
セグメント間取引の消去	△ 62	△ 64	△ 2	-	△ 77
営業費用	10,155	10,566	411	4.0%	23,558
高速道路事業	9,373	9,783	409	4.3%	22,760
(道路資産賃借料)	5,797	6,018	220	3.8%	5,069
(道路資産完成原価)	1,229	1,293	63	5.1%	15,159
(管理費用等)	2,345	2,471	125	5.3%	2,532
関連事業	843	847	3	0.4%	876
(SA・PA事業)	399	392	△ 6	△1.6%	393
(受託・その他の事業)	444	454	10	2.3%	482
セグメント間取引の消去	△ 62	△ 64	△ 2	-	△ 77
営業利益（△損失）	190	△ 1	△ 191	-	73
高速道路事業	171	△ 27	△ 198	-	42
関連事業	18	25	6	35.8%	31
経常利益	220	33	△ 187	△85.0%	77
親会社株主に帰属する当期純利益	242	208	△ 33	△13.9%	55

※) 平成30年度計画は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	SA・PA事業 高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業 駐車場事業、トラックターミナル事業等

2. 連結営業概況

(1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比210億円増の9,755億円となりました。
圏央道の開通等^{※1}による交通量の増加等により、通行台数は前年度比0.9%増の288万台／日となり、料金収入は前年度比150億円増の8,376億円となりました。
道路資産完成高については、東関道(銚田IC^{ほこた}～茨城空港北IC)の新規開通やリニューアルプロジェクトの実施^{※2}等により、前年度比63億円増の1,293億円となりました。
※1) 平成28年度開通区間 圏央道 境古河IC～つくば中央IC 28.5km
平成29年度開通区間 東関道 銚田IC～茨城空港北IC 8.8km
※2) 4ページ「トピックス(平成29年度の主な取り組み)」参照
- 高速道路事業の営業費用は、前年度比409億円増の9,783億円となりました。
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、前年度比220億円増の6,018億円となりました。
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。
また、管理費用等については、道路の凍結防止・除雪等の雪氷対策費用の増等により、前年度比125億円増の2,471億円となりました。
- この結果、高速道路事業は、27億円の営業損失(前年度は171億円の営業利益)となりました。

(2) 関連事業の営業状況

- SA・PAの飲食・物販店舗売上高は、下半期の台風や大雪等の天候不順の影響のため1,016億円となり前年度比で1.5%減少しました。
- このため、SA・PA事業営業収益は前年度比3億円減の416億円となりました。また、営業費用は店舗売上高の減などによる売上原価の減、販売促進費等の減により、前年度比6億円減の392億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前年度比3億円増の24億円となりました。また、関連事業全体の営業利益は、前年度比6億円増の25億円となりました。

(3) 当期純利益

- 平成29年度においては、当社が加入する建設関係法人厚生年金基金の代行部分の過去分返上に伴い、代行返上益として281億円の特別利益を計上しております。
- この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比33億円減となる208億円となりました。

【参考】

個別決算概要（経営成績）

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	平成28年度 決算 A	平成29年度 決算 B	対前年増減額・率	
			B-A	(%)
営業収益	10,011	10,228	216	2.1%
高速道路事業	9,467	9,679	212	2.2%
(料金収入)	8,225	8,376	150	1.8%
(道路資産完成高)	1,229	1,293	63	5.1%
(その他の売上高)	11	9	△1	△15.9%
関連事業	543	548	4	0.7%
(SA・PA事業)	105	106	0	0.8%
(受託・その他の事業)	438	441	3	0.7%
営業費用	9,879	10,287	408	4.1%
高速道路事業	9,345	9,752	407	4.3%
(道路資産賃借料)	5,797	6,018	220	3.8%
(道路資産完成原価)	1,229	1,293	63	5.1%
(管理費用等)	2,317	2,441	123	5.3%
関連事業	533	534	0	0.0%
(SA・PA事業)	93	92	△1	△1.1%
(受託・その他の事業)	440	442	1	0.3%
営業利益（△損失）	132	△59	△191	-
高速道路事業	122	△72	△195	-
関連事業	10	13	3	37.1%
経常利益	171	13	△158	△92.2%
当期純利益	205	212	6	3.0%

■ トピックス(平成 29 年度の主な取り組み)

【高速道路事業】

■ 高速道路ネットワークの整備(新規開通)

東関東自動車道 ^{ほこた} 銚田IC～茨城空港北 IC 間(8.8km)が平成30年2月3日に開通しました。この開通により、周辺都市間の連携強化や道路ネットワークの拡充による農産物輸送の利便性向上などが期待されます。



銚田IC～茨城空港北IC 開通式



茨城空港北IC

■ 高速道路リニューアルプロジェクトの推進(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。平成29年度においては、札幌自動車道^{あさり}朝里IC～^{ぜにばこ}銭函IC(上り線)、東北自動車道福島西IC～^{ふくしまいざか}福島飯坂IC(下り線)など8橋の床板取替工事などが完了しました。



札幌道 大野橋床板取替工事



東北道 吾妻(あずま)橋床板取替工事

■ 防災・減災の強化(東北支社道路管制センターのリニューアル)

東北支社の道路管制センターをリニューアルしたことにより、関東支社と東北支社の道路管制センターの相互でのバックアップ体制を確立、迅速かつ的確な管制業務によるお客さまの安全・安心をサポートしています。



■交通事故の削減(暫定二車線区間における安全対策、逆走対策)

暫定二車線区間の重大事故削減に向け、車線区分柵(ワイヤロープ)の試行設置(合計約70km)を完了しました。また、IC等における逆走対策として、全てのICの本線合流部の路面標示や平面Y型ICの平面交差箇所の着色舗装など約800箇所に対策を完了しました。



ワイヤロープ式防護柵
秋田道(北上西IC~湯田IC)



本線合流部対策
(全772箇所完了)



平面Y型IC平面交差部対策
(全36箇所完了)

【関連事業】

■SA・PA商業施設のオープン

道央自動車道 輪厚PA(上り線)の商業施設を、地域性・旅の楽しみを凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」として、平成29年4月25日にリニューアルオープンしました。

また、お客さまへのサービス・利便性の向上のため、これまで商業施設の無かったPAに新たに商業施設をオープンしました。〔上信越自動車道 千曲川さかきPA(上り線・下り線):平成29年4月28日、常磐自動車道 四倉PA(下り線):平成29年8月3日〕



道央道 輪厚PA(上り線)



常磐自動車道 四倉PA(下り線)